

# 家畜保健衛生所情報

令和7年2月27日

## 春先に向けた吸血昆虫対策の強化をお願いします

昨年11月に国内で初めてランピースキン病の発生が確認され、これまでに福岡県の19農場及び熊本県の3農場において発生が確認されています。現時点で新たな発生は確認されていませんが、本病を媒介する吸血昆虫が活発となる春先以降に再流行が懸念されます。このリスクを最小限に抑えるため、春先に向けた吸血昆虫対策が今の段階で必要です。特に、吸血昆虫の中でも個体数や吸血頻度が多いサシバエ対策が重要です。

別紙のチラシを参考に、今の時期から吸血昆虫対策の実施をお願いします。

### ランピースキン病について

#### 症状

皮膚の結節、泌乳量の低下、発熱、鼻汁、リンパ節の腫大

症状の画像はこちら



(農林水産省) ランピースキン病の  
侵入防止対策について

#### 発生・感染拡大予防

- 農場外へ移動させる前の健康観察、感染が疑われる牛の隔離
- 他の畜産関係施設で使用した器具等を持ち込まない
- 体液（生乳を除く）が付着する器具は1頭毎に交換または消毒  
【例】注射針、人工授精用器具など
- 畜産関係者の海外渡航の自粛、関係者以外の農場への立入禁止
- サシバエ等の吸血昆虫対策

福岡県の発生農場において、サシバエの少ない農場内では  
感染拡大が抑えられていました

